日野ひかり幼稚園ファミリー通信

あなたは子どもに将来どのようになってほしいですか？

①よい学校に行ってよい仕事についてほしい
②自分がやりたいことを自分で見つけて、実行できる人になってほしい
③「生まれてきてよかった。生きてるって楽しい」と思えるようになってほしい

どれが正しいか、ではなく、実際問題自分は……と考えてみてください。

①を選んだ場合
　このように「よい学校やよい仕事」というとき、それは「親にとってよい」ということがほとんどです。
　このような気持ちが強いと、どうしても親の価値観を子どもに押し付けるという可能性が高くなりますので、気をつけてほしいなと思います。

②を選んだ場合
　このような生き方を願う親は、子どもに自分の価値観を押し付けるということはありません。
　子どもは自分で人生を切り開いていける、そういうふうになります。

③を選んだ場合
　このような生き方を願う親も、よい学校やよい仕事という表面的な自分の価値観を子どもに押し付けるということはありません。子どもの気持ちが優先され、子どものやりがいや生きがい、充実感が育まれます。

　子どもへの親の願いには「What」と「How」の2種類があります。Whatは何をしてほしいか。Howはどのように生きてほしいかです。
　親は「What」を抑えて「How」を優先すべきだと思います。
　子どもの頃から、Whatのほうを押し付けられて育つと、子どもは自分がやりたいことを自分で決めて実行していく喜びを味わえないまま成長し、大人になってからも「生きてるって楽しい。あれも、これもやってみたい」という充実感を持てなくなりがちです。
　一方、Howを願う場合は、親の価値観を押し付けることが少なくなります。
　どの学校でもどんな仕事でも本人が毎日楽しくて幸せであってほしいというふうに思います。
　こういう親なら、子どもは幸せです。そして自分の人生を主体的に生きていく、そういう能力と自信を育てることができます。

聞く力を育てたい

「園や学校で、先生や友達の話をしっかり聞いているかしら」「どうしたら、人の話をきちんと聞けるようになるかしら」という心配、悩みをよく耳にします。

「聞く力」　ポイント
・「学校や園で話をきちんと聞いているだろうか」の心配は皆している
・聞いているのではなく、聞こえているだけかもしれない
・聞いたことを理解し、考え、行動に移せて、聞いたと言える
・脳科学的にも「聞く力」は、記憶力や思考力、言語能力などと強く関係している
・聞く力を育てるためには　伝え方が大切。3つのポイントがある
・おうちで子どもの話を聞いている家庭の子どもは、しっかり話が聞けている

①聞く力をつけるための「話し方　3つのポイント」
子どもの脳は未成熟。理解するには時間がかかる
だから、話しかけたらちょっと待って、考える時間を用意してあげる

②子どもの顔、表情を見て「わかった!?」ではなく「わかったかな？」
大切なことはささやき声で
大きな声で子どもがこちらを向いたら、今度はささやくと集中する

③伝えたいことは短く1回だけ（繰り返さない）
「言っていることがわからないのかな？」で、別のことばで言い直すのはダメ
子どもが考えているところに、新しいことばが入ってくると、混乱してしまう

「1回だけ」がしっかり聞けず、困ることがあるかもしれない。
それが「しっかり聞かないと！」の意識につながる
3つのポイントの中、3つともでなくてもいいです。
「これならできる」ということから一つでも始めて下さい。
先ずは子どもの話しを聞くことが重要です。子どもの話を聞く上で、大事なポイントは次の通りです。
・おうちで話を聞いてもらっている子ほど、園や小学校、集団生活の中でしっかり話が聞ける
・おうちの方が子どもの話しをしっかり聞くことが、「聞く力」を育てるのに一番
・1対1だと話が聞ける。おうちの中ではその子に向かって話している
・子どもは集団、大勢の中で話を聞くことに慣れていない
・園や学校ではよく「みんな」「皆さん」という声がけをする
・「みなさん」という子はいない。自分のことと思えない子どもがたくさんいる
・ひとつずつ丁寧に伝えることが小さいあいだは必要
・年齢によっても伝え方のポイントは変わってくる
ほんのちょっと意識して、ほんのちょっと工夫ができれば、「聞く力」はちょっとずつ育ちます。